

この度は、「ズルい！合格法 医薬品登録販売者試験対策 出る順 問題集Z」をご購入いただき、誠に有難うございます。  
試験問題作成に関する手引き(令和4年3月)の改正内容等を反映し、以下のとおり改訂させていただきます。  
ご不便をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

「ズルい！合格法 医薬品登録販売者試験対策 出る順 問題集 Z」改訂一覧表

◆令和4年5月12日

第3章 主な医薬品とその作用(漢方・生薬)				
No.	頁	該当箇所	誤	正
1	P223	問題1 解説	エ 誤 麻杏甘石湯は、体力中等度あるいはそれ以上で、ときにのどが渇くものの咳に適すとされる。	エ 誤 麻杏甘石湯は、体力中等度以上で、ときにのどが渇くものの咳に適すとされる。
2	P225	問題3 解説	猪苓湯の記述である。	猪苓湯の記述である。※現行の手引きでは「体力に関わらず、」が「体力に関わらず使用でき、」に改正されている。
3	P225	問題4 解説	麻子仁丸の記述である。	麻子仁丸の記述である。※現行の手引きでは「痔の緩和」が「痔などの症状の緩和」に改正されている。
4	P229	問題8 解説	防風通聖散の記述である。	防風通聖散の記述である。※現行の手引きでは「蓄膿症」が「蓄膿症(副鼻腔炎)」に、「ふきでもの」が「ふきでもの(にきび)」に改正されている。
5	P233	問題11 解説	八味地黄丸の記述である。	八味地黄丸の記述である。※現行の手引きでは「排尿困難、夜間尿、」が「排尿困難、残尿感、夜間尿、」に、「尿漏れに適す」が「軽い尿漏れに適す」に改正されている。
6	P233	問題12 解説	b 正 問題文の通り。	b 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「手あれ」が「手あれ(手の湿疹・皮膚炎)」に改正されている。
7	P235	問題13 解説	c 誤 ショウマは、キンポウゲ科のサラシナショウマ、フブキショウマ、コライショウマ又はオオミツバショウマの根茎を基原とする生薬で、発汗、解熱、解毒、消炎等の作用を期待して用いられる。	c 誤 ショウマは、キンポウゲ科の <i>Cimicifuga dahurica</i> Maximowicz、 <i>Cimicifuga heracleifolia</i> Komarov、 <i>Cimicifuga foetida</i> Linné 又はサラシナショウマの根茎を基原とする生薬で、発汗、解熱、解毒、消炎等の作用を期待して用いられる。
8	P235	問題13の表 基原の欄 下から2つ目	サラシナショウマ、フブキショウマ、コライショウマ又はオオミツバショウマの根茎	<i>Cimicifuga dahurica</i> Maximowicz、 <i>Cimicifuga heracleifolia</i> Komarov、 <i>Cimicifuga foetida</i> Linné 又はサラシナショウマの根茎
9	P235	問題14 解説	c 誤 レンギョウ(連翹)は、モクセイ科のレンギョウ又はシナレンギョウの果実を基原とする生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。	c 誤 レンギョウ(連翹)は、モクセイ科のレンギョウの果実を基原とする生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。
10	P235	問題14の表 基原の欄 下から1つ目	レンギョウ又はシナレンギョウの果実	レンギョウの果実

第3章 主な医薬品とその作用(漢方・生薬)

No.	頁	該当箇所	誤	正
11	P237	表 基原の欄 上から2つ目	ヤマザクラ又は <b>その他近縁植物の、通例、周皮を除いた樹皮</b>	ヤマザクラ又は <b>カスミザクラの樹皮</b>
12	P237	表 基原の欄 下から3つ目	イトヒメハギの根	イトヒメハギの根 <b>及び根皮</b>
13	P239	表 基原の欄 上から3つ目	<b>ケナシサルトリイバラ</b> の塊茎	<i>Smilax glabra</i> Roxburghの塊茎
14	P241	問題19 解説	a 正 問題文の通り。ロクジョウ(鹿茸)は、シカ科の <b>マンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壮、血行促進等の作用があるとされている。</b>	a 正 問題文の通り。ロクジョウ(鹿茸)は、シカ科の <i>Cervus nippon</i> Temminck、 <i>Cervus elaphus</i> Linné、 <i>Cervus canadensis</i> Erxleben又は <b>その他同属動物の雄鹿の角化していない幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壮、血行促進等の作用があるとされている。</b>
15	P241	問題19 解説	b 誤 センソ( <b>シナヒキガエル等の毒腺</b> の分泌物を集めたものを基原とする生薬)が配合された内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。	b 誤 センソ( <b>アジアヒキガエル等の耳腺</b> の分泌物を集めたものを基原とする生薬)が配合された内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
16	P241	表 部位の欄 上から1つ目	角化 <b>した</b> 幼角	角化 <b>していない</b> 幼角
17	P241	表 部位の欄 上から2つ目	<b>毒腺</b> の分泌物	<b>耳腺</b> の分泌物
18	P241	問題20 解説	d 誤 ショウマは、キンポウゲ科の <b>サラシナショウマ、フブキショウマ、コライショウマ又はオオミツバショウマの根茎が薬用部位である。</b>	d 誤 ショウマは、キンポウゲ科の <i>Cimicifuga dahurica</i> Maximowicz、 <i>Cimicifuga heracleifolia</i> Komarov、 <i>Cimicifuga foetida</i> Linné 又は <b>サラシナショウマの根茎が薬用部位である。</b>
19	P243	問題21 解説	a 正 問題文の通り。	a 正 問題文の通り。 <b>※現行の手引きでは「みぞおちがつかえて」が「みぞおちがつかえ、」に改正されている。</b>
20	P243	問題21 解説	c 正 問題文の通り。	c 正 問題文の通り。 <b>※現行の手引きでは「腹部膨満感のある人」が「腹部膨満感のあるもの」に改正されている。</b>
21	P243	表 特徴(キーワード) の欄 上から2つ目	<b>腹部筋肉が弛緩する傾向</b>	<b>腹部は力がなくて</b>

第3章 主な医薬品とその作用(漢方・生薬)

No.	頁	該当箇所	誤	正
22	P243	表 特徴(キーワード) の欄 上から3つ目	みぞおちがつかえて	みぞおちがつかえ
23	P245	問題23 解説	a 正 問題文の通り。	a 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「体力中等度あるいはそれ以上」が「体力中等度」に改正されている。
24	P245	問題24 解説	a 正 問題文の通り。	a 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「腹部膨満感のある人」が「腹部膨満感のあるもの」に改正されている。
25	P245	問題24 解説	b 誤 麻子仁丸は、体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なもの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの(にきび)、食欲不振(食欲減退)、腹部膨満、腸内異常醗酵、痔の緩和に適す。	b 誤 麻子仁丸は、体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なもの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの(にきび)、食欲不振(食欲減退)、腹部膨満、腸内異常醗酵、痔などの症状の緩和に適す。
26	P247	問題25 解説		※現行の手引きでは、イに出題されている当帰飲子において、「体力中等度」が「体力中等度以下」に改正されている。また、ウに出題されている荊芥連翹湯において、「蓄膿症」が「蓄膿症(副鼻腔炎)」に改正されている。
27	P247	問題25の表 体力の欄 上から4つ目	体力中等度	体力中等度以下
28	P247	問題26 解説	ユウタン(熊胆)は、クマ科のヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬である。	ユウタン(熊胆)は、クマ科の <i>Ursus arctos</i> Linné 又はその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬である。※現行の手引きでは「ヒグマ」が「 <i>Ursus arctos</i> Linné」に改正されている。
29	P247	問題26の表 基原の欄 上から1つ目	オウレン、コプティス・キネンシス、コプティス・デルトイデア又はコプティス・テータの根をほとんど除いた根茎	オウレン、 <i>Coptis chinensis</i> Franchet、 <i>Coptis deltoidea</i> C.Y. Cheng et Hsiao 又は <i>Coptis teeta</i> Wallich の根をほとんど除いた根茎
30	P247	問題26の表 基原の欄 上から2つ目	キハダ又はフェロデンドロン・キネンセの周皮を除いた樹皮	キハダ又は <i>Phellodendron chinense</i> Schneider の周皮を除いた樹皮
31	P247	問題26の表 基原の欄 上から4つ目	ゲンチアナの根及び根茎	<i>Gentiana lutea</i> Linné の根及び根茎
32	P247	問題26の表 基原の欄 下から2つ目	ヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したもの	<i>Ursus arctos</i> Linné 又はその他近縁動物の胆汁を乾燥したもの

第3章 主な医薬品とその作用(漢方・生薬)

No.	頁	該当箇所	誤	正
33	P247	問題26の表 基原の欄 下から1つ目	シナモムム・カシアの樹皮又は周皮の一部を除いたもの	<i>Cinnamomum cassia</i> J. Preslの樹皮又は周皮の一部を除いた樹皮
34	P249	問題27 解説	a 正 問題文の通り。センソは、シナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬である。	a 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「シナヒキガエル等の毒腺の分泌物」が「アジアヒキガエル等の耳腺の分泌物」に改正されている。
35	P249	問題27 解説	c 正 問題文の通り。ロクジョウ(鹿茸)は、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない幼角を基原とする生薬である。	c 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「マンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角」が「 <i>Cervus nippon</i> Temminck、 <i>Cervus elaphus</i> Linné、 <i>Cervus canadensis</i> Erxleben又はその他同属動物の雄鹿の角化していない幼角」に改正されている。
36	P249	表 基原の欄 上から1つ目	シナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたもの	アジアヒキガエル等の耳腺の分泌物を集めたもの
37	P249	表 基原の欄 上から2つ目	マンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角	<i>Cervus nippon</i> Temminck、 <i>Cervus elaphus</i> Linné、 <i>Cervus canadensis</i> Erxleben又はその他同属動物の雄鹿の角化していない幼角
38	P249	問題28 解説	1 誤 ロクジョウ(鹿茸)は、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない幼角を基原とする生薬である。	1 誤 ロクジョウ(鹿茸)は、シカ科の <i>Cervus nippon</i> Temminck、 <i>Cervus elaphus</i> Linné、 <i>Cervus canadensis</i> Erxleben又はその他同属動物の雄鹿の角化していない幼角を基原とする生薬である。
39	P249	問題28 解説	4 正 ハンピ(反鼻)は、内臓を取り除いたマムシを基原とし、強壮、血行促進、強精(性機能の亢進)等の作用を期待して用いられる生薬である。	4 正 ハンピ(反鼻)は、ニホンマムシ等の皮及び内臓を取り除いたものを基原とし、強壮、血行促進、強精(性機能の亢進)等の作用を期待して用いられる生薬である。※現行の手引きでは「内臓を取り除いたマムシ」が「ニホンマムシ等の皮及び内臓を取り除いたもの」に改正されている。
40	P249	問題28 解説	5 誤 インヨウカク(淫羊藿)は、ハンピ(反鼻)と同様な作用(強壮、血行促進、強精等の作用)を期待して用いられるが、メギ科のエピメディウム・プレビコルヌム、ホザキイカリソウ、キバナイカリソウ、イカリソウ、トキワイカリソウ等の地上部を基原とする生薬である。	5 誤 インヨウカク(淫羊藿)は、ハンピ(反鼻)と同様な作用(強壮、血行促進、強精等の作用)を期待して用いられるが、メギ科のキバナイカリソウ、イカリソウ、 <i>Epimedium brevicornu</i> Maximowicz、 <i>Epimedium wushanense</i> T. S. Ying、ホザキイカリソウ又はトキワイカリソウの地上部を基原とする生薬である。
41	P251	問題30 解説	2 正 問題文の通り。	2 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「体力に関わらず、」が「体力に関わらず使用でき、」に改正されている。
42	P255	問題33 解説	d 正 問題文の通り。	d 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「比較的体力のあるものの鼻づまり、蓄膿症」が「比較的体力があるものの鼻づまり、蓄膿症(副鼻腔炎)」に改正されている。
43	P257	問題35 解説	c 正 問題文の通り。	c 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「蓄膿症」が「蓄膿症(副鼻腔炎)」に改正されている。

第3章 主な医薬品とその作用(漢方・生薬)

No.	頁	該当箇所	誤	正
44	P257	表 基原の欄 上から1つ目	タムシバ、コブシ、ポウシュンカ、マゲノリア・スプレングリ又はハクモクレン等の蕾	<i>Magnolia biondii</i> Pampanini、ハクモクレン、 <i>Magnolia sprengeri</i> Pampanini、タムシバ又はコブシの蕾
45	P261	問題39 解説	1 誤 コウカ(紅花)は、キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧縮して板状としたものを基原とする生薬である。末梢の血行を促してうっ血を除く作用があるとされる。	1 誤 コウカ(紅花)は、キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧搾して板状としたものを基原とする生薬である。末梢の血行を促してうっ血を除く作用があるとされる。
46	P261	問題40 解説	c 誤 オンジは、ヒメハギ科のイトヒメハギの根を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。	c 誤 オンジは、ヒメハギ科のイトヒメハギの根及び根皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
47	P263	問題41 解説	ウ 正 問題文の通り。	ウ 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「下痢の傾向のある人における」が「下痢の傾向のあるものの」に改正されている。
48	P263	表 特徴の欄 下から1つ目 下から1行目	・抗菌、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる	・抗菌、抗炎症などの作用を期待して用いられる
49	P265	問題43 解説	b 正 問題文の通り。	b 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「シナモムム・カシアの樹皮又は周皮の一部を除いたもの」が「 <i>Cinnamomum cassia</i> J. Preslの樹皮又は周皮の一部を除いた樹皮」に改正されている。
50	P265	問題43 解説	c 誤 リュウタンは、リンドウ科のトウリンドウ等の根及び根茎を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。設問は、ユウタンの記述である。	c 誤 リュウタンは、リンドウ科のトウリンドウ等の根及び根茎を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
51	P265	問題44 解説	a 誤 シンイ(辛夷)は、モクレン科のタムシバ、コブシ、ハクモクレン等の蕾を基原とする生薬であり、鎮静、鎮痛の作用を期待して用いられる。	a 誤 シンイ(辛夷)は、モクレン科の <i>Magnolia biondii</i> Pampanini、ハクモクレン、 <i>Magnolia sprengeri</i> Pampanini、タムシバ又はコブシの蕾を基原とする生薬であり、鎮静、鎮痛の作用を期待して用いられる。
52	P265	問題44 解説	d 正 問題文の通り。	d 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「イトヒメハギの根」が「イトヒメハギの根及び根皮」に改正されている。
53	P269	問題47 解説	a 誤 設問は、安中散の記述である。	a 誤 設問は、安中散の記述である。※現行の手引きでは「腹部筋肉が弛緩する傾向にあり」が「腹部は力がなくて」に改正されている。
54	P269	問題47 解説	b 誤 設問は、平胃散の記述である。	b 誤 設問は、平胃散の記述である。※現行の手引きでは「下痢の傾向のある人における」が「下痢の傾向のあるものの」に改正されている。

第3章 主な医薬品とその作用(漢方・生薬)

No.	頁	該当箇所	誤	正
55	P269	問題47 解説	c 誤 設問は、六君子湯の記述である。	c 誤 設問は、六君子湯の記述である。※現行の手引きでは「みぞおちがつかえて」が「みぞおちがつかえ、」に改正されている。
56	P273	問題52 解説	d 誤 体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満(筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり)に適すとされる。	d 誤 体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症(筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり)に適すとされる。